

高齢者公益事業部

2017年9月に始まった浜名湖エデンの園の建替工事は、4号館の増築工事を経て、2020年5月に新1・2号館が完成し、多くの入居者をお迎えすることになる。新たな入居者、既存の入居者がともに安心して新しくなった居室・共用スペースでの生活を楽しんでいただけるサービスを提供する。

浜名湖エデンの園の工事後は宝塚エデンの園、松山エデンの園の建物更新を検討していくことになるが、建物更新等に円滑に対応するには、適切な収支を維持していくことが重要である。エデンの園の永続性を確保するためにも、これまで以上に直営施設の収支改善を実行していく必要がある。2019年度は大型の台風により日本各地で大きな被害が相次いだ。防災対策・備蓄の見直しを行い、自然災害に備える体制を強化する。

2020年度は「標準サービス」（当事業部の運営する有料老人ホームが入居者に提供するサービスの基準）により「サービスの質」を明確化し、質・量でサービスの品質管理を具体化する。EOL（End of Life）ケアツールを藤沢エデンの園で試験導入ならびに評価を実施し、サービスの高付加価値化を図りたい。更新した業務基幹システム ETS（EDEN TOTAL SYSTEM）は引き続き高機能化に取り組み、他システムとの連携を検討する。海外研修、関連法人との交流研修は2020年度も継続して実施し、職員のキャリアアップ・定着化を図りたい。

職員の採用・育成・定着に関しては、施設の機能を維持するために適正な人員配置に努めるとともに、多様な職員が安心して働き続けられるよう、介護ロボットやAIの活用を含め運用と設備の両面から改善工夫を行う。

新規施設の開設については、検討を継続するだけでなく、機能性やデザイン性に優れた住まい空間を提案したい。

2019年度の入居者募集活動は件数では予算を達成できたものの、入園金額では予算未達となった。エデンの園を必要とする高齢者に1人でも多くエデンの園のサービスを具体的にお知らせするとともに実際に見ていただく機会を強化し、「ここに入居してよかった」と実感していただけるような募集活動を行いたい。直営7施設の目標数値として、入居契約件数218件、入園金合計65億円を目指す。

【事業部理念】

私たちは、高齢者ひとりひとりを尊重し、自由で快適な生活の実現を支援する。

【経営方針】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
2. 経営の安定と永続性の確保
3. 人材の採用・育成・定着の強化
4. サービスの質・安全・効率の向上
5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とエデン価値の進化
 - (ア) 聖隷理念・事業部・施設運営方針の浸透と実践
 - (イ) 標準サービスの具現化
 - (ウ) 公益活動の推進

2. 経営の安定と永続性の確保
 - (ア) 販売対象居室入居率95%以上の維持
 - (イ) 直営施設の施設会計の改善
 - (ウ) 環境、耐久性等を考慮した建物・設備更新の計画策定と実施

3. 人材の採用・育成・定着の強化
 - (ア) 人材採用力の向上
 - (イ) 定着への環境づくりによる離職の防止
 - (ウ) 職員のキャリアアップ

4. サービスの質・安全・効率の向上
 - (ア) 感染症の拡大（集団感染）の防止
 - (イ) リスク対策の強化
 - (ウ) 食事サービスの向上
 - (エ) EQC（事業部内の品質管理システム）の実践
 - (オ) 介護・看護の質を向上させる新たな取り組みの実践
 - (カ) 入居者満足度の継続及び改善案の実施

5. 新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想
 - (ア) 新規施設開設の継続検討
 - (イ) 次世代技術の創造

【数値指標】（新規契約のみ）

2020年度期末

入居契約 目 標	浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢 1 番館	藤沢 2 番館	合計
件 数	100 件	32 件	11 件	30 件	20 件	10 件	11 件	4 件	218 件
入居率	90%	94%	94%	96%	96%	98%	100%	98%	95%

介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園

2019年度は1・2号館耐震対策建替工事が順調に進み、1月には定礎式を迎えることができた。工事による騒音や振動等の影響も少なくなり、園内は平穏を取り戻してきた。職員は完成後の運用面の検討が進み、入居者・職員ともに徐々に完成に向けての期待が膨らんでいる。

また「働き方改革」の初年度として有給休暇の取得や超過勤務の削減が注目され、各課が対応に苦慮しながらも、特に食事サービス課は働き方を大きく見直すことに成功した。

2020年度は4月に1・2号館の竣工式、5月の連休明けから建物の本格運用及び新規入居の開始となる予定である。年間100件の新入居を目標に掲げ、入居率も4月の74%から年度末の3月には90%近くまで急上昇させる計画をしている。新入居の第1ピークは5月・6月で64件、第2ピークは8月の16件と想定している。新しい建物の利用開始をスムーズに進めると同時に、短期間に多くの新入居者を迎えても丁寧で手厚い支援を行うことが、園全体の課題である。

サービス・支援体制については、今までのパーソン・センタード・ケア（PCC：その人らしさを尊重した介護やサービス）をそのままに、アドバンス・ケア・プランニング（ACP：人生会議）の推進及び定着を図り、入居時から終末期まで切れ目のないサービスを提供する。そのために、入居者募集センター・生活サービス課・食事サービス課・居室サービス課・ケアサービス課、そして浜名湖エデンの園診療所のすべての部署間・部署内での情報共有が不可欠であり、2019年度導入の新基幹システム（ETS）やインカム（無線）のさらなる活用が必要と認識している。介護サービス・介護予防サービスとは別に、自立入居者や入居検討者にとって魅力ある「健康増進サービス」の実現に向けて、検討を開始する。

高齢者公益事業部の方針でもあるが、新1・2号館完成に伴い、「より災害に強いエデンの園」をめざし、周辺施設及び地元自治会等と連携を強化していく。

最後に、労働人口が減り続け、特に看護介護業界では働き手不足が顕著になる中で、職員の「働き方改革」に対しては、「有休取得」や「超勤削減」にとどまらず、職員一人ひとりが自らの問題として考え「働き続けられる職場づくり」に継続して取り組むこと、そして園は意識改革と環境整備に最大限の支援を行うことが、将来にわたる安定した園の運営につながると認識している。

【施設理念】

「私たちは一人ひとりを尊重し、入居者の快適な生活を実現するために最善を尽くします。」

【経営方針】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
5. 入居者と共に取り組む新しい浜名湖エデンの園づくり

【事業・運営計画】

1. 個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践
 - (ア) 入居時から終末期まで連動したパーソン・センタード・ケア（PCC）の考え方に基づくサービスの実践と評価
 - (イ) その人らしく生活することを支えるための仕組みづくり
 - (ウ) アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の推進と定着への取り組み
 - (エ) 標準サービスの検証とサービスの「見える化」
 - (オ) 地域とつながる取り組みの推進
2. 次世代を担う人材育成とキャリアを活かして働き続けられる職場づくり
 - (ア) 「聖隷理念」「施設理念」の継承
 - (イ) 自立・自律した人材の育成
 - (ウ) 「働き方改革」のさらなる推進
 - (エ) 働きやすい職場環境の整備
 - (オ) 障害者雇用の促進と定着への取り組み
3. 安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保
 - (ア) グランドオープン後の入居率の早期向上
 - (イ) 業務の効率化の徹底
 - (ウ) 施設「事業・運営計画」「予算」の全職員の理解と達成への参画
4. 安全管理の徹底を図ったサービスの提供
 - (ア) コンプライアンス体制の強化
 - (イ) 緊急時の対応訓練の効果的な実施（防災・防犯・感染予防・行方不明者対策など）
 - (ウ) 情報共有のためのコミュニケーション精度の向上
 - (エ) 新たな建物・設備における防災・防犯体制の強化
5. 入居者と共に取り組む新しい浜名湖エデンの園づくり
 - (ア) グランドオープン後、入居者 500 名体制を見据えたサービス提供体制づくり
 - (イ) 元気な自立高齢者に魅力あるサービスの検討
 - (ウ) 「老舗」の有料老人ホームとしての内外環境の整備

【数値指標】

2020 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	336 戸/372 戸		49 戸/57 戸		385 戸/429 戸			
入居者数/定員	410 名/455 名		50 名/64 名		460 名/519 名			
入居率	90.3%		86.0%		89.7%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	20 名	14 名	44 名	16 名	14 名	9 名	6 名	
職員数（常勤換算）	128.3 名							
サービス活動収益	787,650 千円							

ウェル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園

2019年度は、40周年という節目の年であり様々な企画行事を立案し、入居者サービスに努めた。また、サービスの標準化に伴う生活支援サービスの見直しなど、大きな業務改革を起こした年度でもあった。

2020年度は、2019年度より取り組んだ入居者情報を園全体で共有する仕組み「私の軌跡」を本格稼働させ、また職員の専門性を高める取組みについても組織的に関与する形を構築し、より質の高いトータルケアサービスを提供していく。エデンの特徴でもある介護予防の取組みについては、各種介護予防体操の差別化とともに、新しい介護予防ツールによる更なる仕組みを構築し、より効果的なサービスを提供していく。

募集活動は大々的な集客方法から、実際に足を運んでいただき雰囲気を感じていただくことができる小規模の集客方法に2019年度変更したが、入居検討度の高い方々へのアプローチが可能となったことから、引き続き同様の方法で進めていく。

介護・福祉分野の人材不足は深刻であり働き方改革の取組みも含め、作業環境管理、作業管理、健康管理の取組みをより一層進めていく。また安定したサービス提供を継続する為にも、まずは新 ETS の更なる活用に取り組んでいく。

地域に根差した公益的活動は、近隣市、近隣自治会とのより積極的な連携を進めることとし、WAC 事業も合わせて推進していくこととする。

【施設理念】

安心と生きがいの創造

【経営方針】

1. 私たちは、「隣人愛」の精神に基づき、ご入居者と職員一人一人の尊厳を守ります。
2. 私たちは、ご入居者とともに5つ星の施設づくりに努めます。
3. 私たちは、法令を遵守し、その人らしさを大切にしたいより良いサービスを提供します。
4. 私たちは、地域と協調し、開かれた施設を目指します。
5. 私たちは、品質目標を設定し、その達成度を常に確認して、業務改善を進めます。

【事業・運営計画】

1. 入居者満足度の向上
 - (ア) ニーズの把握と気づきに基づいたサービスの提供
 - (イ) 食事満足度調査の評価向上に向けた取り組み
 - (ウ) その人らしい生活を最期まで支えるトータルケアの実践（「私の軌跡」の活用）
 - (エ) 「見える化」の実践による入居者との協同した園運営の実践

2. 職員満足度の向上

- (ア) 聖隷理念、事業部経営方針及び施設運営方針に基づいた行動計画の策定と実践
- (イ) 職場・職員間の連携強化と各課業務の再構築の取組み
- (ウ) 段階的な人材育成と個別の専門性の強化
- (エ) 働き方改革に伴う業務の効率化
- (オ) 最新介護機器の導入による業務負荷の軽減と安全な介護の実践

3. 健全経営体制の維持

- (ア) 全職員が募集活動のそれぞれの役割を果たし、期末入居率 95%以上の確保
- (イ) 附属診療所部門の経営体制強化
- (ウ) 職業倫理・コンプライアンス経営の実践
- (エ) 費用対効果を考慮した経費管理と省エネの取組み

4. 安全・安心な暮らしの提供

- (ア) 災害や緊急時における事業継続計画の策定と感染予防対策の徹底
- (イ) 災害や感染拡大に対する入居者の自主防衛の支援
- (ウ) リスク、苦情への迅速な対応

5. 地域における公益的な取組み

- (ア) 防災・避難計画に基づいた協力関係の確認と連携強化
- (イ) 障害者の就労機会の創出
- (ウ) WAC 事業の推進

【数値指標】

2020 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数／総戸数	343 戸／358 戸		46 戸／50 戸		389 戸／408 戸			
入居者数／定員	396 名／501 名		50 名／50 名		446 名／551 名			
入居率	95.8%		92.0%		95.3%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合 計
	8 名	9 名	34 名	28 名	22 名	18 名	4 名	
職員数(常勤換算)	136.4 名							
サービス活動収益	959,300 千円							

有料老人ホーム 松山エデンの園

2019年度、松山エデンの園では、園の目標とする施設の将来像である開園50年に向かって各施策を達成する為の施設運営を計画する年であった。新システム導入の運用が開始され、運営の変化はあったが、エデンの園のご入居者が充実した生活を変えることなく送ることができるよう努めた。

2020年度においては、松山エデンの園は創立40周年を迎える。ご入居者と共に園生活での幸せづくりに支援できるよう施設運営に努めていく為、経営の安定と継続性の確保する為の2019年度に作成した実効性ある収益改善案を具体化していかなければならない。募集活動については、継続した積極的な活動に加えて対象地域の見直しや新規イベントも取り入れながら入居率向上に努める。経営の安定においては、入居率向上を目指したうえで、現在の施設会計の改善につながる改定案を策定していく。

次に質の高いサービス提供ができるよう職員の育成・定着の強化できる施設づくりが必要である。業務改善やリスク強化を継続しながら、職員のキャリアアップを目指し、充実した研修や他施設交流ができる職場環境を整備していきたい。設備環境については、防災体制を見直し、更なる安全と備えあるサービスの維持を実施していく。

隣接する医療法人聖愛会松山ベテル病院とは2020年度も安心できる協力医療機関として継続した連携体制を更に整備していきたい。地域住民の方々には、地域合同防災協定を活かした地域との関わりを持続し、地域に信頼していただく、貢献できる施設運営に努めていく。

【施設理念】 『明るく楽しく共に輝いて生きる』

わたしたちは、ご入居者の喜びや願いを見出し、そのお一人おひとりの幸福(しあわせ)づくりを支援、援助できることに大きな喜びを見出す

【経営方針】

1. 入居募集と経営の安定
2. 人材の確保と育成
3. よりよいサービスの提供
4. 安心安全な施設環境づくり
5. 地域における公益的な取組

【事業・運営計画】

1. 入居募集と経営の安定
 - (ア) 新規契約戸数 10戸12名
 - (イ) 充実した園の生活や楽しみを知って頂く募集活動への取り組み
 - (ウ) 入居検討者のニーズに応じた受入れ対応(介護棟への直接入居)
 - (エ) 施設会計の改善に向けた改定案の作成

- (オ) 住替えが必要とされる方への適切な対応
- (カ) 省エネ活動の継続的な取組と適切な設備更新

2. 人材の確保と育成

- (ア) 新システムを活用した職員の連携体制
- (イ) 人材の採用力強化と定着への環境づくり
- (ウ) 目標参画・各種ラダーを活かした職員評価と教育の実践
- (エ) 職員のキャリアアップができる職員育成
- (オ) 聖隷理念・施設理念に基づく職員倫理・接遇意識の向上

3. よりよいサービスの提供

- (ア) ご入居者の幸せづくりに支援できるトータルサービスの提供
- (イ) ご入居者へ質の高いケアの実践
- (ウ) EQC（エデン・クオリティ・コントロール）の実践
- (エ) 食事満足度調査の評価を向上できる取り組み
- (オ) 医療法人聖愛会との医療体制の連携強化

4. 安心安全な施設環境づくり

- (ア) 防災体制の見直しと備えあるサービスの強化
- (イ) 苦情、リスク発見時の迅速かつ連携できる対応
- (ウ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
- (エ) 園内設備の計画的な改修とコスト意識をもった設備維持管理

5. 地域における公益的な取組

- (ア) 地域での災害を想定した防災体制の強化、環境保全活動への取り組み
- (イ) 地域の医療・介護連携への参画

【数値指標】

2020 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数	99 戸/109 戸		34 戸/35 戸		133 戸/142 戸			
入居者数	115 名/134 名		34 名/35 名		149 名/169 名			
入居率	90.8%		97.1%		93.7%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	17 名	5 名	17 名	4 名	12 名	6 名	4 名	
職員数(常勤換算)	58.3 名							
サービス活動収益	298,570 千円							

介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園

2019年度はメディア再放送効果および部署連携を強めた募集活動が功を奏し、募集予算を達成し、多くの新入居者を迎えることができた。見学会や取材協力など入居者の協力と職員の奮闘に感謝する。また、南共用W棟の空調更新や6・7号館改修等の計画修繕工事を実施した。

さて、2020年度は、エデン標準サービスの具現化を図る年度であり、限られた人員配置を最適化し効率的に活用することにより、いかに質の高いサービス提供ができるかが重要である。そのためにも職員ひとり一人が油壺職員であるという強い誇り（油壺プライド）を持ち、「安心なサービス提供と質向上」「職員育成」「安定した施設運営」を重視した取り組みを行う。「安心なサービス提供と質向上」については、更新した新ETS（エデン総合情報システム）の安定稼働により、業務効率を高めるとともに、蓄積データ活用によりサービス内容の可視化を図る。食事部門においては、メニュー改革やメニューアピールを強め喫食率向上に努める。「職員育成」については、EPA（経済連携協定）による海外研修生を育成していくとともに、他部署との交換研修を充実させ他部署理解を深めて業務に活かす。職員採用については個々のライフスタイルに合わせた働き方など採用過程の見直しを図る。また、女性職員が活躍できる環境づくりと、職員が超過勤務削減や有休休暇取得等、各々の働き方を意識するよう管理者の働きかけを強化する。

「安定した施設運営」については、「空室ゼロ」を目指し入居率を向上させるとともに、さらなる施設会計の改善に取り組む。施設整備では、3・5号館の改修工事を計画的に実施していく。入居者の年齢層や価値観の違いを踏まえ、さらに入居者の個別性（その人らしさ）を尊重した関わりをしていくことが、エデンの園の醍醐味でもあり、皆様が安心、平穏な園生活をお送りいただけるような運営をしていきたい。

【施設理念】

私達は『ひとり一人と ここちよく 共に暮らす』ことを目指します

【経営方針】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
2. 自ら考え課題解決できる職員の育成
3. 安定した施設運営・経営
4. 環境・省エネへの取り組み強化と地域との関わり
5. 災害時の対策、防災教育の徹底

【事業・運営計画】

1. 安心、安全を基盤としたサービス提供と質向上
 - (ア) 入居から退去までのトータルサービスの提供
 - (イ) エデン標準サービスの具現化とサービス内容の可視化
 - (ウ) 入居者ニーズに沿った行事企画の充実
 - (エ) 「美味しいのは当たり前」と言える食事サービスの質向上
 - (オ) 接遇向上のための知識と技術の習得

(カ) リスク対策の強化（評価の徹底による再発防止）

2. 自ら考え課題解決できる職員の育成

- (ア) やりがいのある職場風土の醸成
- (イ) 人材活用と適正配置による業務効率の向上
- (ウ) 人材採用力の強化
- (エ) 職員個々の質向上のためのスキルアップ
- (オ) 施設内交流研修による部署理解の向上

3. 安定した施設運営・経営

- (ア) 園内設備の計画的改修と実施
- (イ) 全部署が募集活動に参画し、入居率 95%（期末）以上確保
- (ウ) 介護サービスへの適切な移行と介護報酬収益の確保
- (エ) 介護予防活動見直しによる健康維持増進
- (オ) 診療所入院ベッドの適正利用
- (カ) EQC（EDEN QUALITY CONTROL）の活用による生産性の向上

4. 環境・省エネへの取組み強化と地域との関わり

- (ア) コスト意識を持った省エネルギーへの取り組み
- (イ) 地域貢献活動（環境保全）への参加
- (ウ) 職場環境整備のための 5S 運動（整理・清掃・整頓・清潔・躰）の継続
- (エ) 障害者の就労機会を増やすための取り組み

5. 災害時の対策、防災教育の徹底

- (ア) 災害防災・防犯訓練の質の向上
- (イ) 入居者・職員の防災意識の向上
- (ウ) 地域と連携した災害協力体制の構築

【数値指標】

2020 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	372 戸／379 戸	36 戸／45 戸	408 戸／424 戸
入居者数／定員	467 名／500 名	36 名／50 名	503 名／550 名
入居率	98.2%	80.0%	96.2%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	20.7 名	27.2 名	28.6 名	20.3 名	18.4 名	17.8 名	11.0 名	

職員数(常勤換算)	135.6 名
サービス活動収益	1,022,300 千円

介護付き有料老人ホーム 浦安エデンの園

2019年度は入居者の声を反映した運営を進めるため、ご意見をお伺いする場を増やし、共用部の使い方について入居者と共に考え話し合いを重ね、新ルールによる運用を開始した。また、2018年度から進めてきた「居場所づくり」については、支援を必要とする入居者のためのダイニングが完成し利用をスタートした。

2020年度は、入居者が安心して生活できる施設運営を重点目標とし取り組みを行う。第一に、これまでの想定を超えるような自然災害に備えるため災害対策の強化を図る。さらに防犯防災訓練の実施、感染症対策にも注力し、安心・安全が高められるよう取り組む。また、入居から看取り期までのどの段階においても安心して生活していただける支援体制の充実のため、各課の相談窓口としての機能向上とサービスの質の向上を図っていききたい。そのための職員教育として、聖隷理念の浸透、専門領域の知識技術向上のための支援や、行動指針の作成・周知をすることで職員の意識向上を図るなどの取り組みを行い、職員の質・接遇力を高めていく。一方、生産年齢人口の減少などを背景に人材確保が課題となっており、職員の採用・定着のため、働きがいのある職場風土の醸成の取り組みに加え、IT化やAIの活用も視野に入れた業務改革を検討していく必要がある。入居者の「居場所づくり」については、利用は定着したため、今後は内容の充実を図り、楽しめる時間の提供を行う。経営面では、レストラン利用者の増加を目指し、より満足いただける食事の提供とレストランの環境改善に努めていく。募集活動面では、入居率95%以上を維持することを目指し、浦安市内を中心とした活動を継続することと適正な介護居室への住替えを進めていく。

【施設理念】

ご入居者を真ん中においた生活の創造

【経営方針】

1. 良質なサービスの追求
2. 働きがいのある職場風土の醸成
3. 安心・安全な施設づくり
4. 安定した施設経営の実現
5. 地域における公益的な取り組み

【年度事業目標・年度事業戦略】

1. 良質なサービスの追求
 - (ア) 安心した生活を支えるサービスの質向上への取り組み
 - (イ) 入居者満足度調査結果を踏まえた改善の取り組み
 - (ウ) 入居者参画型の楽縁プロジェクトの推進
 - (エ) 入居者の声を反映した楽しめる食事の提供
 - (オ) 相談窓口の機能向上の取り組み
 - (カ) 看取り介護の質を高める体制づくり

2. 働きがいのある職場風土の醸成
 - (ア) 聖隷理念・事業部経営方針及び施設運営方針の浸透
 - (イ) 各課の役割を理解し、連携強化を図れる職員の育成
 - (ウ) 専門領域の学習を支援し職員の質の向上を図る
 - (エ) 接遇力を高め、切磋琢磨しあえる職場風土の醸成
 - (オ) メンタルヘルス向上への取り組み

3. 安心・安全な施設づくり
 - (ア) 災害対策の強化
 - (イ) 感染症発生時の早期対応と感染拡大ゼロへの取り組み
 - (ウ) リスク回避と発生時の迅速な対応
 - (エ) 防犯・防災の実践的な訓練の実施

4. 安定した施設経営の実現
 - (ア) 各課参画した募集活動の推進～入居率 95%の維持
 - (イ) 環境・省エネへの取り組み

5. 地域における公益的取り組み
 - (ア) 地域開放型イベントの継続
 - (イ) 地域防災活動の実践
 - (ウ) 地域清掃活動への参加

【数値指標】

2020 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	192 戸/195 戸	24 戸/29 戸	216 戸/224 戸
入居者数	227 名/294 名	24 名/30 名	251 名/324 名
入居率	98.5%	82.8%	96.4%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	12 名	7 名	18 名	8 名	8 名	6 名	7 名	

職員数（常勤換算）	68.3 名
サービス活動収益	440,500 千円

介護付き有料老人ホーム 横浜エデンの園

2020年度に横浜エデンの園は開設10周年を迎える。10年という節目の年を迎えるにあたり、ケア実績の集大成として、「認知症ケアの実践」「エンド・オブ・ライフケア」を中心とした「お一人おひとりに寄り添えるケア」の在り方をまとめる。経営目標は入居率98%を目指す。サービス提供の基となる職員の「働き方改革」への継続した取り組み、職場環境の改善、人財定着の強化を図る。職員のキャリアアップ支援を継続し、安定したケアサービスを提供できる職員層の厚い組織を構築する。

2019年度に、各地に大きな被害をもたらした台風15号・19号による当施設の被害は極僅かであったが、公共交通機関の計画運休等、都市型施設である当施設の運営上の課題も浮き彫りとなった。それらを踏まえ「地域防災連携」の強化と災害時を想定しての実践訓練に取り組む。災害対策の他、安全・安心・良質なサービス提供の為、施設運営に関してはバランス良い施設づくりを目標に「かながわベスト介護セレクト20」「かながわ認証」取得を目指す。又、介護テクノロジー領域も視野に入れ、近未来に向けた取り組みを開始する。

【施設理念】

「ひとりひとりの笑顔のために」

私たちは、横浜エデンの園で出会えたすべての方々が、生き生きとした笑顔で自分らしく暮らし、いつまでも自分らしく輝けることを目指して、精一杯の笑顔とまごころを込めてサービスを提供いたします。

【経営方針】

1. 安全・安心・良質なサービス提供
2. 人財の育成、定着の強化
3. 経営基盤の安定と永続性の確保
4. 地域社会との連携と協働
5. 環境・省エネに対する意識強化

【事業・運営計画】

1. 安全・安心・良質なサービスの提供
 - (ア) 現状に即した情報交換・共有とチームケアの充実
 - (イ) リスク対策の強化（事故発生後の迅速な検討会議開催とPDCA：感染・苦情相談を含む）
 - (ウ) パーソン・センタード・ケア理念に即した認知症チームケアの定着
 - (エ) 入居者に適したエンド・オブ・ライフケアに向けて聖隷横浜病院と医療連携の維持
 - (オ) 入居者満足度調査の結果の評価・分析による改善への取り組みの継続

2. 人財の育成

(ア) 人財確保

(イ) 職員同士で感謝等を言語化することによるモチベーション向上活動の継続

(ウ) 「働き方改革」の維持推進

(エ) 職員のキャリアアップ支援（認知症専門研修・認知症ケアマッピング研修・キャリア段位認定資格取得支援等）

3. 経営基盤の安定と永続性の確保

(ア) 平均入居率 98%の維持（平均要介護度 3.0 以上）

(イ) 職員全員のコスト意識の強化

(ウ) 施設運営費の変更

(エ) 経年劣化を見込んだ計画的な修繕・修理の実践

(オ) 介護テクノロジーの活用による経営改善

4. 地域社会との連携と協働

(ア) 地域防災連携の構築（近隣高齢者福祉施設等周辺状況の調査、災害支援ナースの設置）

(イ) 地域貢献への活動の継続（市や区主催のイベントへの協賛、ふれあい食堂の継続）

5. 環境・省エネ活動への取り組みの強化

(ア) 入居者と協働したエコ活動

(イ) 省エネ・エコ活動の啓蒙の継続

(ウ) 事業ゴミの削減による環境保全

【数値指標】

2020 年度期末

	2020 年 3 月末	2020 年 4 月 ～2021 年 3 月	計（退去 8 戸除く）
契約戸数	49 戸/50 戸	49 戸/50 戸	49 戸/50 戸
入居率	98.0%	98.0%	98.0%

※退去戸数を 8 戸で計上

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	1 名	4 名	6 名	11 名	10 名	9 名	9 名	50 名

職員数(常勤換算)	49.9 名
サービス活動収益	271,780 千円

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2019年度は、様々な課題・改善点を、自ら主体的に解決・改善するという視点で事業計画に沿って運営に取り組むことにより一定の成果が得られた。2020年度もPDCAサイクルの継続と新たな取り組みによって、タウン全体のサービスの向上を目指すべく、以下事業計画を取り纏めた。

2020年度も、エデンの園をはじめタウン内の各事業所に求められるニーズの変化を早期に察知するために、行政・地域との情報交換を積極的に行うことにより、地域の環境や社会資源の状況を適時把握し、緊密なタウン内連携と地域連携を推進することによって、利用者に更なるタイムリーで最適なサービスの提供を目指す。それらのサービスの提供においては、だれが何をすべきかを明確にし、多職種がチームとして活動できる連携・協力体制を構築していく。さらに、働き方改革を意識した多様な働き方の実践や、介護現場におけるロボットやICTの活用により、これからの将来を見据えた努力と様々な工夫をおこなう。

藤沢エデンの園では、企業との連携により「軽度認知症状の発見と認知症高齢者の見守り施策事業」をおこなう他、介護ロボットの導入検討も積極的におこない、現在タウンや地域に抱えている課題の解決と、将来を見据えた環境・体制づくりに取り組んでいく。

また、藤沢市内における有料老人ホーム、老人福祉施設、さらには訪問・通所の介護サービス事業は過密状況にあり、10年目を迎える当タウンも、他の事業所と比較され一層厳しい評価を受ける時期に直面している。タウン内各事業所は、これまで研鑽を重ねてきたプロフェッショナルとしての基本的な介護技術に加え、「認知症ケア」「看取りケア」「End of Life Care」「ACP」等の知識と技術を礎に、人材確保と育成にも十分に注力し、利用者一人ひとりに最適なサービスを提供していくことで、地域No.1の評価を目指す。

その他、近年各地で発生している自然災害への対応・対策についても、これまでも防災体制の再確認や改善を目標に掲げてきたが、不足している課題については継続的に取り組むことにより「安心・安全」の充実を図る。

2020年度も、利用者が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで生活することの幸せ」と、職員が「聖隷藤沢ウェルフェアタウンで働くことの幸せ」を感じられるよう、運営をおこなっていく。

【施設理念】

『私たちの目指すもの ～笑顔あふれる幸せの街づくり～』

良質のサービスは「笑顔」、福祉の心は「幸せ」、地域への貢献は「街づくり」とそれぞれの言葉に我々の思いが込められている。

【経営方針】

1. 安全・安心の施設づくり
2. 効率的な運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 地域における公益的な取組への注力（地域・社会とのつながりの推進）

【年度事業目標・年度重点施策】

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

1. 最善を追求したサービスの提供
2. 多様・多職種の人材確保と育成の強化
3. 更なる安心・安全を目指した、災害対策・対応
4. 地域共生社会における社会福祉法人として役割の具現化と実践

藤沢エデンの園（一番館・二番館）

一番館、二番館、さらにはタウン内外の福祉施設、医療機関、企業との連携、また多職種連携により、これまで以上に「安心・安全」を目指した体制を整備する。

【藤沢エデンの園 一番館】

1. サービスの質の向上
2. 接遇力の強化
3. 二番館他、各事業所との連携強化

(数値目標)

2020 年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数／総戸数	209 戸／209 戸	—	209 戸／209 戸
入居者数	264 名	—	264 名
入居率	100.0%	—	100.0%

職員数(常勤換算)	52.1 名
サービス活動収益	386,570 千円

【藤沢エデンの園 二番館】

1. 安全で安心できるサービスの提供
2. 人材の育成の強化
3. 職場の環境改善

(数値目標)

2020 年度期末

	2020 年 3 月末	2020 年 4 月 ～2021 年 3 月	計
契約戸数／総戸数	43 戸／50 戸	46 戸／50 戸	49 戸／50 戸
入居率	86.0%	92.0%	98.0%

要介護認定者数	要支援	要支援	要介護	要介護	要介護	要介護	要介護	合計
	1	2	1	2	3	4	5	
	1 名	2 名	4 名	11 名	17 名	8 名	6 名	49 名

職員数(常勤換算)	38.6 名
サービス活動収益	194,660 千円

藤沢愛光園

2020年度は、開設から10年目の節目の年となる。入居者・利用者への安全と安心のサービス提供を礎に、開設時の初心・基本に立ち返り、入居者に寄り添った「認知症ケア」「看取りケア」に取り組んでいく。また、気配り心配りを意識し親しみのある接遇ができるように取り組む。経営面では、地域事業所との連携を強化し待機登録者や新規利用者を確保し安定した入居率の維持を目指す。人材確保では、介護負担の軽減や計画的な研修参加などをすすめ、職員がやりがいを持ち長く働ける職場づくりに努める。

【藤沢愛光園】

1. サービスの質の向上
2. 経営の安定化
3. コミュニケーション力と接遇力の向上

(数値目標)

	特養入所	短期入所
利用者定員	100床	20床
利用者延べ人数	35,770人	6,680人
営業日数	365日	365日
一日平均利用者数	98.0人	18.3人
稼働率	98.0%	91.5%
単価(1人1日あたり)	14,930円	14,436円
サービス活動収益	534,420千円	96,430千円
職員数(常勤換算)	66.0人	15.8人
職員数(常勤換算)	81.8人	

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

利用者が自身で機能維持・向上の機能訓練に取り組めるような仕組み作りを行い、且つ安全に利用できるようリスク管理にも取り組む。又、そのための人材育成を行い、利用者が長く自宅に住み続けられるような支援ができるデイサービスを目指す。

(数値目標)

	介護給付			総合事業		単価		サービス活動収益
	平均利用者数	月利用者数	年間利用者数	月利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	総合事業(月)	
一日	26.7件	688.0件	8,256.5件	15.0件	180件	10,500円	40,300円	97,230千円
半日	2.5件	44.8件	538.0件	—	—	6,100円	—	

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

地域のニーズに対応できるようケアマネジメント力を向上させる。地域および聖隷藤沢ウェルフェアタウンの利用者を支えるチームケアを構築する。

(数値目標)

年間請求件数		単価		訪問調査		サービス活動収益
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価	
1,368 件	504 件	16,860 円	4,992 円	108 件	5,000 円	26,120 千円

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

わたしたちのサービスを必要とする利用者が、安心して自宅で生活ができるよう、サービスの質の向上に努める。(特に認知症の利用者に対して、臨機応変な対応ができる)

人材の確保、育成、活用により、ひいては利用者増に繋げることで安定運営を目指す。

(数値目標)

介護給付			総合事業		障害者		
平均利用者数	月訪問数	年間訪問数	月利用者数	年間利用者数	平均利用者数	月訪問数	年間訪問数
35.5 名	472.0 件	5,664 件	31.5 件	378 件	27 件	324 件	3,084 件

単価			サービス活動収益
介護給付 (回)	総合事業 (月)	障害者 (回)	
3,745 円	18,900 円	4,400 円	44,950 千円

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

利用者・家族が QOL の高い状態で、自分らしく暮らせることを目的とし、安全・安心な在宅ケアを提供するために、人材育成に取り組む。特に増加してきているがん末期を含めた看取り、精神疾患利用者への質の高い看護を提供するため、事業所内外の研修等で研鑽する。多職種連携にも努め、引き続き地域で選ばれる事業所を目指す。

藤沢ウェルフェアタウン内の各事業所との連携強化に努める。

(数値目標)

平均利用者数	月訪問数	年間訪問件数	単価 (円)	サービス活動収益
104.0 名	661.5 件	7,938 件	9,667 円	76,740 千円

ウェル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園

2019年度、有料老人ホームの一般居室は引き続き高い入居率を確保し、新規契約戸数も予算を上回ることができた。食堂中庭の整備と開園30周年にむけた段階的な大規模植栽整備を実施予定である。入居者の皆様には、園が掲げるスローガンである「最期までその人らしく健康に生活する健幸生活」を推進するにあたり「エデン版地域包括ケアシステム」の中心的な役割を担う「いきいき生活室」より情報発信、各種相談受付、健幸チェック、ボランティアグループ「虹のわ」の活動などを進めることができた。また、介護予防、認知症予防や住替えが必要とされる方への円滑な対応を行う事ができた。ニッセイ聖隷クリニックは有料老人ホームの附属診療所として役割を果たし、診療報酬等の制度改定に伴う迅速な対応を行うことができた。奈良ベテルホームは「在宅強化型老健」としての運営を継続し、稼働率も予算数値に近い実績をあげることができた。在宅部門は河合町や近隣事業所との連携を更に強化し、引き続き地域支援への取り組みに努めた。4月から国の施策として「働き方改革」法案が施行され、職員が健康でいきがいを持って働ける環境づくりにも尽力した。安心・安全面では地震・火災・防犯訓練を引き続き実施した。

2020年度も新規契約戸数の予算達成に注力し、好調な高い入居率を継続する。施設全体の取り組みである「エデン版地域包括ケアシステム」の継続と、3年目に入った「いきいき生活室」のボランティアグループ「虹のわ」の活性化及び地域を含めた世代間交流やボランティア等の活動も強化していきいたいと考えている。また、安心・安全面の取り組みとして、引き続き災害対策に力を入れることが重要であり、訓練の効果的な実施と、河合町にある施設として近隣との協力体制も必要である。サービス提供については職員一人ひとりの知識、技術の向上は勿論であるが、考えて行動できる職員の育成にも取り組んでいく。WAC 第一号施設として継続してきた事業が、2022年度に開園30周年を迎えるにあたり、後世に残るしっかりとした基礎を作る年としたい。

【施設理念】

私たちは、ひとりひとりを尊重し、「健康」・「生きがい」・「安心」を支援し続けます

【行動方針】

1. 私たちは、ひとりひとりのいのちと尊厳を守ります
2. 私たちは、最高のサービスを提供するために最善をつくします
3. 私たちは、地域との絆を育み、地域社会に貢献します

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践
 - (ア) 聖隷理念の浸透と実践
 - (イ) その人らしさを最期まで支えるケアの推進
 - (ウ) エデン版・地域包括ケアシステムの充実
 - (エ) 食べる楽しみの追及と安定した食堂運用
 - (オ) 開園30周年記念に向けた企画立案

2. 安定した経営基盤の確立

- (ア) 複合施設の連携を活かした入居者・利用者・患者ニーズの把握と確保
- (イ) 職員一人一人の経営意識向上
- (ウ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の美化・整備
- (エ) 省エネルギー資源活動への取り組みの継続

3. 人財の育成・活用・定着の強化

- (ア) 働き方改革への取り組みの継続
- (イ) 採用力強化と定着への取り組み
- (ウ) 社会的責任を満たすための多様性に対応した就労環境の提供と雇用の確保
- (エ) 各種ツールを活用した職員教育の実践
- (オ) 気づきと行動力のある職員の育成
- (カ) 交換研修・専門研修等への計画的参加と資格の取得支援
- (キ) 活気ある明るい職場づくりと職員の心身の健康管理への取り組み

4. サービスの質・安全・効率の向上

- (ア) 身体拘束、虐待防止への取り組みの継続
- (イ) 感染症予防対策の徹底と集団感染の防止
- (ウ) リスク分析力向上と効果測定による再発事故防止
- (エ) 接遇マナーの向上と職員間で指摘しあえる風土づくり
- (オ) 防災・防犯対策・教育と訓練の強化
- (カ) EQC（エデンカレイドコントロール）の定着・実践と新 ETS（業務基幹システム）の定着化
- (キ) 満足度調査実施と結果の分析、課題解決への取り組み

5. 地域における公益的な取り組み

- (ア) WAC 施設としての地域貢献・交流
- (イ) 地域との災害時の協力体制強化
- (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

2019年12月1日現在において、入居契約件数403戸（一般居室358戸、介護居室45戸）入居率は97.8%（一般居室98.9%、介護居室90.0%）、入居者の平均年齢は全体で82.0歳である。

2020年度は新ETSの更新による業務の効率化をケアの充実へにつなげ、より安全で安定したサービスの提供を目指す。また、職場間の連携を充実させ、“安心”を提供できる適切な住替えを進めていく。エデン版地域包括ケアシステムにおいては、いきいき生活室を中心とし、各職場でもコンセプトの理解を深め、入居者の生きがいつくりへにつなげていく。

開園30周年にむけては、段階的な大規模植栽整備を継続し、記念プロジェクトにより入居者に喜んでいただけるような行事等の企画をすすめる。

また、働き方改革や労働人口の減少などの社会情勢をふまえ、ICT化、AIやロボット導入など“多様な働き方”に対応した労働環境の整備など具体的な対応がさらに求められる。

【事業・運営計画】

1. 聖隷理念の継承とトータルケアサービスの実践

- (ア) マイメモリーシートの活用方法を見直し、その人らしさを終末期まで支えるケアの推進

- (イ) 施設内連携の実践によるエデン版地域包括ケアシステムの浸透
 - (ウ) 認知症になっても安心して生活できるエデンづくり
 - (エ) “エデン食堂”として身近に感じていただくための企画・運営と満足度向上
 - (オ) 開園 30 周年記念に向けた企画立案
2. 安定した経営基盤の確立
- (ア) 身体状況に応じた適切な住み替えとサービスの提供
 - (イ) 入居募集活動への協力と連携
 - (ウ) 施設設備の計画的更新と園周辺環境の美化・整備
 - (エ) 省エネルギー資源活動への継続的な取り組み
3. 人財の育成・活用・定着の強化
- (ア) 働き方改革への取り組み
 - (イ) 多様な働き方への対応した採用力強化への取り組み
 - (ウ) 障がい者雇用に向けた各職場間の連携
 - (エ) 目標参画・各職種のラダーを活用し自ら考え行動できる職員の育成
 - (オ) 他施設・他部署との計画的な交換研修の推進と職場の活性化
 - (カ) 活気とやりがいを感じる職場環境整備と風土づくり
4. サービスの質・安全・効率の向上
- (ア) 身体拘束、虐待防止への取り組み
 - (イ) 感染予防対策の徹底と集団感染の防止
 - (ウ) リスク分析能力向上と対策評価の徹底による再発事故防止
 - (エ) EQC の定着と実践の継続と新 ETS の活用
 - (オ) 接遇向上を目指し職員間で指摘しあえる風土づくり
 - (カ) 防災・防犯対策教育と訓練の実施・強化
 - (キ) 満足度調査の結果をふまえたサービスの質の向上
5. 地域における公益的な取り組み
- (ア) WAC 施設としての地域貢献・交流
 - (イ) 地域との災害時の協力協定の締結と防災の協力
 - (ウ) 地域支援事業への積極的な参画と「学び」の拠点となるための活動

【数値指標】

2020 年度期末

	一般居室			介護居室			計	
契約戸数	357 戸			43 戸			400 戸	
入居者数	470 名			44 名			514 名	
入居率	98.6%			86.0%			97.1%	
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	24.0 名	31.0 名	32.8 名	19.1 名	18.2 名	13.3 名	6.6 名	145 名
職員数(常勤換算)	101.24 名						※有料老人ホーム部分	

◆ 高齢者総合福祉センター

2019年度は、計画していた新規講座を開催し、新たなニーズへの対応を図ることができた。中止となった、まほろばホールでの開催を予定していたコンサート分を除き2018年度を上回る受講・参加者数となることが見込まれる。

2020年度においては、継続及び内容の充実を最優先に取り組み、拡大は行わず安定的な事業運営を目指す。

◆ ニッセイ聖隷クリニック

2019年度は改修した個室5床の稼働率が上がったことにより室料差額が予算を上回った。外来については入院協力医療機関と関係づくりを行い、『もの忘れ外来』を6月より開始した。健診では精度管理を目的として、すべての眼底写真について専門医の読影を開始した。

2020年度は高齢化する河合町住民のために送迎サービスを行い、集患対策及び介護保険による通所リハビリを開始する。入院は積極的な外部入院患者の受入を行う。健診については各種キャンペーンを継続することにより、受診者数増につなげる。

◆ 介護老人保健施設「奈良ベテルホーム」

2019年度は「在宅強化型老健」としての運営を継続した。入所に関しては在宅復帰を支援しながら在宅強化型のポイントを維持し、稼働率も予算数値に近い数字で運営することができた。通所リハビリテーションに関しては上半期利用者数が上がらなかったため、利用者数を予算数値まで引き上げることに注力した。渉外活動の強化や様々な取り組みを行ったことにより、結果、9月には予算通りの数字を達成することができた。

2020年度は「在宅強化型老健」として在宅復帰、在宅療養支援に取り組みながら稼働率も維持していく。通所リハビリテーションに関してもしっかりと予算利用者数を維持することにより、安定した運営を確立させる。設備面も整い、経営面も安定した施設の中で最高のサービスを提供し続ける施設を目指す。

◆ ニッセイせいでい在宅介護サービスセンターベル・西大和店

2019年度は、総合事業の訪問介護は予算達成できたが、それ以外は、入院・施設入所が相次ぎ、新規ケースのケア回数・時間等が、減少分を補うことが出来ず、予算未達であった。

2020年度は、ヘルパーの募集方法見直しと離職防止により人材確保を図ると共に、重度者に対応できる体制作りに取り組む。居宅支援事業所等との連携強化を図り、新規利用者獲得を目指す。

◆ 訪問看護ステーション西大和

2019年度は、長期利用者の逝去による利用終了で介護保険、医療保険共に訪問件数の減少となり予算未達となった。訪問依頼には積極的に応じ、退院前カンファレンスやサービス担当者会議への参加で情報の共有と連携に努め、利用者のニーズに応じる事ができた。

2020年度は近隣事業所・医療機関との連携をさらに密に取り、新規利用者獲得による収益増加に加え、ICTの導入による業務改善を行い、事業の安定運営を目指す。

◆ ニッセイせいでいケアプランセンター西大和

2019年度は、地域ケア会議やケアマネネットワーク会議への参加や研修等参加・協力、「西和地域7町における入退院連携マニュアル」の活用継続などにより、医療・介護・地域との連携を強化していく中で予算達成でき、また経年課題の災害対策に着手し始めることができた。

2020年度は、在宅サービス室全体で地域防災強化に向けて取り組むとともに更なる連携強化を図り、ケアマネジメントの質の向上の推進、選ばれる居宅介護支援事業所運営を目指す。

ウェル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園

開園から24年目を迎えることとなる2020年度も、引き続き全職員が一体となった入居者募集活動を展開し、入居率は、契約手続き中も含めて実質100%の状況の維持を目指す。その一方で、ここ近年の状況を鑑みると、ご入居者の高齢化及びそれに伴うご逝去者の増加が今後も予測されるが、それに対応するために各職場がしっかりと情報共有を図り、看取り体制の充実や介護居室への円滑な住み替えも合わせて実施していきたい。また、2020年度は介護居室6室増築を柱とする新4号館（仮称）の建築工事が始まる。これを長年の課題であった介護居室不足解消、および入居者増加に伴う施設会計の黒字化につなげ、さらなる施設発展への好機となるようしっかりと準備を進めていきたい。

災害対策という点においては、2019年度は日本列島に大型台風が立て続けに上陸し、千葉県にも大きな被害をもたらした。幸いにも当園に大きな被害はなかったものの、災害対策強化の必要性を強く感じた年でもあった。近年の異常気象も考慮し、従来の地震・火災対策に加え、園の設備の基幹である電気室の浸水防止など、水害に備えた対策もしっかりと講じていきたい。

職員採用については、介護士をはじめとした専門職種の人材不足が懸念されるが、今後さらに厳しさが増すであろう人材確保に対し、外国人労働者の活躍の場の拡大なども図り、数年先まで見据えた採用活動ならびに人材育成に取り組みたい。

以上のことを視野に入れながら、施設理念でもある“ご入居者にここを選んで良かったと思っただけのような施設づくり”を目指し、次のような重点目標を掲げ、2020年度の施設運営に臨んでいく。

【施設理念】

私たちは一人ひとりを尊重し、“ここを選んで良かった”と思っただけのような施設づくりを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 人材の育成
3. 経営基盤の安定
4. リスク管理体制の強化
5. メンタルヘルスへの取り組み強化
6. 地域社会と連携した事業展開
7. 環境・省エネへの取り組み強化

【事業・運営計画】

◆有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

1. 各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上
(ア) 入居検討時から最期までその人らしいライフスタイルを尊重したシームレスなサービス体制の提供

- (イ) 部門間情報共有の強化と各システムの情報統合への取り組み
- (ウ) 入居者参画型の企画・行事の継続
- (エ) 関わりの少ないご入居者へのアプローチ（セカンド含む）

2. 人材育成と連携

- (ア) 聖隷理念（隣人愛精神）の継承
- (イ) 気づきと行動力のある専門職の育成
- (ウ) 不適切なケアの防止、接遇の知識・技術の向上と強化
- (エ) 職員に対する園全体でのサポート体制の構築
- (オ) 他課との連携を意識した業務整理と介護業務一元化の検討
- (カ) お互いを認め合い、やりがいのある職場風土の醸成

3. 経営基盤の安定

- (ア) 全職員による新入居者募集への参画（園に関する知識の向上）
- (イ) 人材の確保・定着の強化
- (ウ) 選ばれる食堂に向けた新たなサービスの創造（喫食率の向上）
- (エ) 雇用制度多様化への対応と有効活用
- (オ) サービスの適正化による費用見直し

4. リスク管理体制の強化

- (ア) 感染予防対策の強化及び拡大防止への取り組み
- (イ) 入居者・職員の命を守るための防災体制への取り組み
- (ウ) セキュリティ及び防犯の強化
- (エ) IAの活用による事故の再発防止（対策立案能力の向上）
- (オ) コンプライアンス遵守の徹底
- (カ) メンタルヘルス活動の推進

5. 社会・地域への貢献と連携

- (ア) 地域に開かれたWAC施設としての取り組み
- (イ) エデンの園のノウハウの還元（地域における公益的取組）
- (ウ) 社会的責任への取り組みの充実

【数値指標】

2020年度期末

	一般居室	介護居室	計
契約戸数	312戸/315戸	34戸/37戸	346戸/352戸
入居者数	384名/419名	35名/37名	419名/456名
入居率	99.0%	91.9%	98.3%

要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	28名	20名	26名	28名	12名	12名	9名	

職員数(常勤換算)	117.50名	※有料老人ホーム部分
-----------	---------	------------

◆診療所「松戸ニッセイ聖隷クリニック」

園のご入居者の平均年齢は 85 歳前後となり高齢化がさらに進んできている。それに伴い、より幅広い疾病への対応が求められ、今まで以上に各職種の専門性が必要となってきた。そのため、チーム医療だけでなく、個人のスキルアップが求められる。同時に、患者が望む医療を受けていただくためには、外部医療機関との連携を更に充実させなければならない。経営面においては、入院外来ともにここ数年は患者数が横ばいとなっており、収益全体でも微増にとどまっている。今後は外部患者への予防接種枠を設置し収益増を図っていくことも安定した経営のためにも必要であると考えている。

また、2020 年度も安定した医療サービスの提供を行うために、組織内の連携を大切に、リスクの軽減を図りながら、ご入居者・ご利用者へ安心と信頼を提供していきたい。そのために、以下の重点目標を掲げ目標達成に向けて取り組んでいく。

1. 医療・看護サービスの充実

- (ア) 各課との連携を強化し、各職種の特性を活かしたチーム医療の実践
- (イ) 入居者の定期健康診断の受診率向上
- (ウ) 看取り看護の充実
- (エ) 地域への貢献、地域医療連携の充実

2. 人材育成と連携

- (ア) 専門職としてのスキルアップと情報発信
- (イ) 園内研修受講率の向上と外部研修への積極的参加
- (ウ) 離職防止に向けたフォロー体制の構築

3. 経営基盤の安定

- (ア) 病床稼働率 90%の維持
- (イ) 外部患者の予防接種枠の設立
- (ウ) 次期診療報酬改定への対策検討
- (エ) 電子カルテシステムを活用した業務効率化の実践

4. リスク管理体制の強化

- (ア) IA 事例の共有と再発防止策の遵守
- (イ) 感染拡大防止策の徹底
- (ウ) 働き方改革に対応した労務管理
- (エ) 患者・職員の命を守るための防災体制への取り組み

2020 年度数値指標

【診療部門】

	一日平均患者数	単価	診療実日数
外来部門	55.0名	4,750円	243日
入院部門	17.0名	11,800円	365日

【検診部門】

	定期検診延べ受診者数	簡易検診延べ受診者数
入居者検診	760名	840名
職員検診	202名	

◆高齢者福祉総合センター「ニッセイ松戸アカデミー」

ニッセイ松戸アカデミーでは、ご入居者と近隣にお住いの方が、趣味活動などを通じて、生きがいと仲間づくりをしていただくことを目的としている。2020年度も多くの入居者及び近隣にお住まいの方が参加できる季節のイベントや各種教室、大ホール・エントランスロビーでのコンサートを引き続き開催していく。また、「エデンの園のノウハウを地域にお住いの方にも還元できる活動」についても2019年度に引き続き実施していきたい。

1. 専門職によるエデンの園のノウハウ還元のための取り組み拡充
2. 入居者募集と地域交流につながる魅力ある企画の立案
3. 地域の方と共に楽しめるイベントの充実

◆ニッセイエデン・ヘルパーステーション

2020年度事業計画

2019年度で顕著であったのは、入所・入院によるサービス終了数が新規利用者数を上回ったことである。また新規利用者のうち、要支援者が2018年度は全体の8%であったが、2019年度は30%であることが特徴的である。2020年も引き続き介護支援専門員との連携を密にし、信頼を得て、何より利用者のよりよい在宅生活に寄り添っていきたい。そのためにも職員のスキルアップが必要と考える。

また、地域とのつながりのある在宅という特徴を、エデンの園、クリニックのために活用できないかを模索していく。

【事業計画】

1. 地域の求める要望を情報収集し、対応できる事業展開を実施する
2. 入居者へのサービスを継続
3. 障害福祉サービス、多様化する介護保険サービスに対応できるよう、介護員のスキルアップ及び積極的な研修参加
4. メンタルヘルス対策を意識した園との交流の構築
5. 在宅利用者におけるクリニック利用の推進

2020年度数値指標

【介護保険】

	利用者数	単価
介護給付・障害者支援（日平均）	24.0名	4,650円
予防給付（月利用者数）	15.0名	18,000円
有償（入居者）サービス（月利用者数）	12.0名	9,000円

営業日数=310日（月平均26日）

ケア付き高齢者住宅 明日見らいふ南大沢

2019年の厚生労働省からの発表では、平均寿命が男性81.25歳、女性87.32歳、総務省からの報告では日本の高齢化率が28.4%といずれも昨年 of 過去最高を更新した。今後もまだまだ高齢者数が増加していく中で、働く人口の減少、医療・介護の問題など、明日見らいふ南大沢においても様々な課題に直面していくと思われるが、2020年度も健全な施設運営に努めていく。

さて、明日見らいふ南大沢を見てみると、入居者の平均年齢は、昨年同時期と比較し0.5歳高くなり86.1歳(2019年11月末)となった。平均年齢の向上に伴い、何らかの支援を必要としている入居者も更に増えることも予想されるので今後も人材確保、職員の質の向上に努め、入居者が安心して暮らせる支援体制の充実に取り組んでいく。

2020年度は、2019年度の方針を踏襲しつつ更にもう一步前進していきたい。まず入居者サービス部門では、2018年度から「健康長寿」に繋がるプログラムとして取り組んできたスクエアステップエクササイズ・スクウェア9に加えて、このプログラムには体力的理由で参加が難しい方々を対象とした新たなプログラムを検討し、実施に向けて取り組んでいく。人材育成においては役職者のマネジメント能力の向上とともに、次世代の役職者育成に注力する。

最後に、2020年は夏季オリンピック・パラリンピック大会が56年ぶりに東京で開催される。開催地“東京”にある施設として観戦ツアーやパブリックビューイングなどオリンピック関連行事を企画しながらご入居者の皆さまにとって、楽しく思い出に残る1年にしていきたい。

【施設理念】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します。

【経営方針】

1. サービスの質の向上
2. 安心・信頼できる施設運営
3. 人材確保と育成の強化
4. 東京都住宅供給公社と聖隷福祉事業団が連携した施設運営

【事業・運営計画】

1. 入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供
 - (ア) 「健康長寿」に繋がるプログラムの定着と新しいプログラムの開発
 - (イ) 生活利便サービスの充実に向けた取り組み
 - (ウ) 要介護未認定入居者やサービスにつながりにくいケースに対する支援の実践
 - (エ) 入居時からシームレスな情報共有の仕組みづくり
 - (オ) 介護が必要になった時に向けてのご入居者の意志を聞き取る体制づくり
 - (カ) 認知症早期発見に向けての取り組み
 - (キ) ケア充実のための新しい福祉用具・IT機器導入の検討

2. 人材の育成

- (ア) 役職者のマネジメント能力の向上
- (イ) 次世代の役職者の育成
- (ウ) 自信につながる専門領域の習得
- (エ) 各課の役割を理解し、連携強化を図れる職員の育成
- (オ) 権利擁護・リスクマネジメント能力の向上

3. 地域との交流・協力関係づくり

- (ア) 納涼祭・介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり
- (イ) 高齢者あんしんセンターとの繋がりによる専門職としての活動の機会づくり
- (ウ) ご入居者の経験や知識を活かした地域貢献活動の場所づくり
- (エ) 地域活動への参加

4. 環境・エコ活動への取り組み

- (ア) ご入居者と共同・協働による環境活動の実施
- (イ) 省エネへの取り組みの継続
- (ウ) 防災対策・ハードの見直し

5. 入居者募集

- (ア) 募集業務の理解を深める
- (イ) 新規入居者のスムーズな受入れ

6. その他

☆オリンピック開催地として、ご入居者と共に記念に残るイベントの実施

【数値指標】

2020 年度期末

	一般居室		介護居室		計			
契約戸数/総戸数	294/317 戸		46 戸/53 戸		340 戸/370 戸			
入居者数/定員	332 名/482 名		46 名/53 名		378 名/535 名			
入居率	92.7%		86.8%		91.9%			
要介護認定者数	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計
	16.7 名	10.5 名	20.1 名	19.2 名	16.0 名	13.5 名	12.0 名	108.0 名
職員数（常勤換算）	107.52 名							
サービス活動収益 ※	116,600 千円							

※クリニック南大沢施設診療所のみ